

2 コラム RAMPWAY  
泉 麻人

特集 グローバル人材の育成

5 育てたいのは  
“ユニバーサル人材”  
立教大学 副総長(国際化推進担当)  
異文化コミュニケーション学部 教授  
池田伸子

8 日本人としての強みと課題  
日本人初米国3大プロスポーツのチアリーダー  
スポーツリポーター  
小池絵未

12 ぶら〜り首都高めぐりの旅  
横浜北線・横浜北西線の巻

13 CHALLENGE  
インフラパトロールシステムの積極展開

14 Taste of the Season  
森下典子

16 首都高HEADLINE

18 BUSINESS ESSAY  
なぜ、宇宙飛行士の話は  
心に響くのか?  
有人宇宙システム株式会社 有人宇宙技術部主幹  
山口孝夫

20 つくる人まもる人  
首都高速道路株式会社  
片岡竜輝 竹内祐二 遠藤 萌

22 高速百景 中野正貴

contents produced by  
Metropolitan Expressway Company Limited



illustration by Takao Nakagawa

column | RAMPWAY 41

首都高名所案内  
中野長者橋  
長者・鈴木九郎の  
伝説

コラムニスト  
泉 麻人

新しい駅やニュータウンに味気ない名前が付けられて、歴史ある地名が忘れられてしまうことはよくあるけれど、首都高の出入口やジャンクションには割合と古い地名が残されていて、昔の東京好きにはうれしい。たとえば六本木一丁目の谷町ジャンクションや皇居北側の出入口・代官町、そして2007年に開通した中央環状線の中野坂上近くには「中野長者橋」という出

入口がある。

これは地下高速の上を走る山手通り(環六)に以前から存在する橋の名前だが、その大元の由来は山手通り沿いに門を開ける成願寺。

能登の海辺の集落に見られるような細竹を組んだ扉に大きな達磨和尚の絵が掲げられ、中国の黄檗宗様式の山門をくぐって入る、なかなか印象的な佇まいのこの寺を創建した人物が俗に

「中野長者」と呼ばれた鈴木九郎。境内に氏の生涯を解説した掲示板がある。

「鈴木九郎が中野本郷に住みついたのは約六百年前、足利時代の初めである——」なんて調子で始まって、先祖が紀伊熊野権現の別当であったこと、後に武家となって源義経の下で壇ノ浦合戦に参加したこと、応仁の乱の後に中野本郷の一角を開拓したこと……などが綴られている。

開拓用に育てた馬を葛西の馬市に売りに行く途中、願掛けで訪ねた浅草観音のお告げを発端に大金持ちになった……なんてことが物語調に書かれている。が、良い事ばかりではなく、可愛がっていた一人娘が病死、その供養をこめて建てたのがこの成願寺なのだ。

寺の門前の山手通りを東側に渡って、神田川に架かる中野長者橋の脇を高層ビルが立ち並ぶ西新宿の方へ入っていくと、この辺の道はくねくねとした昔ながらの農道のままで、散歩するにはおもしろい。町名も中野区弥生町、渋谷区本町、新宿区西新宿、といった3区の領域が入りこんでいて、副都心のビル群を目印にしないと道に迷ってしまう。

羽衣湯という最近改築した感じの銭

湯の先の湾曲した横道に入っていくと、路端に品台を出した昔風の八百屋さんがあった、すぐ向こうに(昭和七年九月)の築年を刻んだ石橋の朽ちた橋柱が残されている。

柳橋という神田川の支流に渡されていた小橋で、川はオリンピック前年の昭和38年に暗渠化されたようだが、この橋際にあった風間商店という製麺屋の(ゆでめん)の看板が、伝説のバンド・はっぴいえんどの最初のアルバムに描かれて(林静一・画)、以来このアルバム自体が(ゆでめん)の通称で呼ばれるようになった。

しかし、このくねくねとした商店筋、百メートルかそこらの区間だが、何か時空の狭間に紛れこんだような昭和気分の店屋が軒を並べている。背景の高層ビル群を指標に進むと、熊野神社前の交差点手前に行きあたった。そう、この新宿中央公園西端の熊野神社も地元熊野の12の権現様を集めて、中野長者の鈴木九郎が創建したものなのだ。

いずみ あさと / 1956年、東京都新宿区生まれ。慶應義塾大学商学部卒業。79年、東京ニュース通信社に入社。『週刊TVガイド』などの編集者を経て、フリーのコラムニスト。近著に『1964 前の東京オリンピックのころを回想してみた。』(三賢社)がある。